

モグリンニュース

第20号(2006年12月)

一雨ごとに寒さが増していますが、いかがお過ごしでしょうか？文化財課職員の間にも、風邪や体調不良者が続出中です。今年もあと一ヵ月。元気に年越しできるよう頑張りましょう！

11月のボランティア研修会の報告です！

16日(木)の研修会では広島城跡の発掘現場の見学と土器の復元作業などを体験しました！

ボランティア研修会～広島城跡発掘現場見学&整理作業体験～



穏やかな秋の日差しの日学院前のバス停に、「祇園郷土史研究会」の皆さん(約20名)と一緒に集合して合同での研修会です。

かつて三重に城を取り巻いていた外堀跡をたどりながら、法務総合庁舎地点(中区上八丁堀)の発掘現場に向かいました。発掘現場は予想していたよりも広い面積でした。地面が深いところで1.5メートル、平均して1メートルぐらい掘り下げられ、石列、井戸、溝、ゴミ穴など、当時の武家屋敷での生活を窺わせる遺構が姿を現しており、多数のスタッフの皆さんが慎重に発掘作業をしておられるのが印象的でした。

次は、幟町小学校内にある整理作業室に移動しての研修です。ここでは市内の各発掘現場から集められた膨大な量の出土品の水洗いや整理記号の記入、土器の復元などの整理作業が行われており、それぞれの作業を参加者で交代しながら作業体験をしましたが、大変興味深い経験となりました。

(筆：ボランティア学芸員 渡辺秀人さん)



宝暦8年(1758年)に城下町広島島の東半分を焼いた「宝暦の大火」によって焼けた土の跡も見ることができました。

幟町整理作業室にて(上：遺物についた土を刷毛で洗い落とします。水が冷たい！ 左：根気のある復元作業 右：遺物の裏に出土地点などを筆で小さく記入します。)

整理作業のおしごと

幟町小学校内の整理作業室では、担当の職員が日々発掘現場から持ち込まれる大量の出土品の整理にあたっています。主な作業は、遺物の水洗い・復元・出土地点などの記録をするナンバリングなどです。私も先日土器の復元を少し体験しましたが、手作りの土器は破片ごとに厚みが異なるうえ、立体なので微妙に湾曲していて、ジグソーパズルのようにはいきませんでした。

ここで復元された土器たちは、調査の結果をまとめた報告書への掲載や、学校などへの出張授業、展示会などに活用されます。



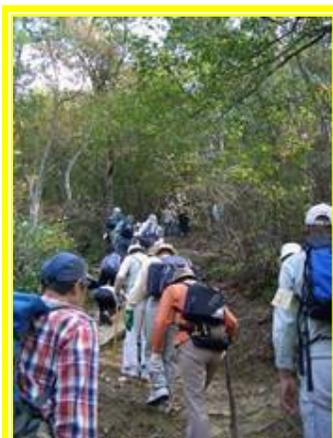
あなたの知らない!?!身近な歴史

遺跡へGO!

Vol.2

東区と安佐北区にまたがる木の^き宗山。弥生時代に祭祀に使われたと考えられる青銅製品が出土した中腹の烏帽子岩と、山頂の山城跡を目指して福田側から出発しました!

名称	県指定史跡 木の宗山銅鐸銅剣出土地	
所在地	東区福田	
どんな遺跡?	標高 413.1m。中腹にある烏帽子岩の下辺りから、弥生時代の銅鐸(どうたく)、銅剣(どうけん)、銅戈(どうか)の3点の青銅製品が出土しました。これらは集落から離れた丘陵斜面や山陰など、日常生活から離れた聖域と思われる場所で発見されることが多く、祭祀などを行うときだけ、取り出して使っていたと考えられます。また、木の宗山山頂には中世に山城が築かれ、今も空堀の跡や郭(くわ=人工的な平坦面)を見ることができます。	



登り始めは良かったけれど...、山頂手前はかなりの急傾斜で、全身を使って這い上がりました...

急斜面もあるけれど、眺めも良く、古代と中世の歴史を一度に感じることができました!
(田原)



中腹にある烏帽子岩(高さ 2m)。このあたりに青銅器が埋められていました。



出土した青銅器(左から、銅戈[長さ 29.5 cm]、銅剣[長さ 39.7 cm]、銅鐸[高さ 19 cm])



山頂からの眺め。これだけ見晴らしがよければ、山城があった時代にも敵の動きがばっちり観察できたことでしょう...



山頂の山城跡。地面が平らにならされていて、自然の地形ではなく、人為的な手が加えられていることがうかがえます。

11月はこんなところに行きました！

出張事業 東区の二葉公民館まつりや温品公民館でのコースターづくり、安佐北区の可部冠山周辺、木の宗山のハイキングと遺跡見学を行いました。可部冠山周辺は紅葉がキレイでしたよ！



素朴な風合いのコースターづくりは、大人から子どもまで人気のメニューです。(左:二葉公民館まつり 右:温品公民館の教室事業)



ハイキングと遺跡めぐりが一石二鳥で楽しめます！(左:木の宗山 右:可部冠山)

リベンジ！こんちゅう料理教室 10月に予定していながら、残念なことに中止となってしまった「古代風こんちゅう料理教室」ですが、応募して下さった教職員の方を中心に11月26日(日)に改めて実施しました。

当日は、あいにくの雨で底冷えのする寒さでしたが、歓声や悲鳴!?をあげながら、古代体験や昆虫食を楽しんでもらうことができました。ボランティア学芸員の吉川さん、台信さんには、参加者だったにもかかわらず、結局いろいろとお手伝いしていただき本当に助かりました。ありがとうございました!!



屋外だったので、焚き火をしながら実施しました。でも寒かった！



なかなか火がつかず、苦労しました。



煎ると香ばしくなるドングリ。そろそろ食べてもいいかなあ...?



どんぐりクッキー。白くトッピングしてあるのは栗の実を食べるクリームシ!



古代米(注:ハチの子入り)炊飯



人気だったイナゴの照り焼き



ざざむし(カワガラなどの幼虫)入りのお味噌汁



文化財課初!



液体窒素をかけたところが、白く凍っています。

編み目のアップです。表面を土が覆っています。

広島城跡法務総合庁舎地点の発掘現場で、ゴミ穴と思われる場所から植物繊維を編んで作ったむしろのようなものが発見されました。普通、木や植物などは腐りやすいため、遺物としては残りにくいのですが、この現場は土壌

に多くの水分が含まれており、遺物が空気に触れない状態であったため、長年その形が保たれていたのです。しかし、こうした遺物は大変脆くなっているため、形を崩さないように取り上げるのは非常に困難です。そこで、今回は液体窒素を使って周りの土ごと凍らせて取り上げる方法をとりました。液体窒素は - 196℃ と超低温で、食品の急速凍結をはじめ様々な分野で利用されています。このような方法での遺物の取り上げは文化財課初の試みで、江波山気象館など液体窒素を使った科学実験を行っている他施設の協力も得ながら実施しました。

こうして取り上げた遺物は、調査のうえ、今後の活用目的に合わせて保存処理を行います。

1月の研修会



学校への出張授業や主催事業の中で出番の多かった火起こし体験。体験で使う道具には、より火が起きやすいように、ひと工夫加えてあります。例えば火きり臼は、一見板にV字の切り込みが入ってあるだけのように見えますが、摩擦によって出てくる木屑がたまりやすいように、写真のように裏側の角を削ってあたりします。今回は、これらの道具作りを通して、火起こしの原理や火について考える研修にしたいと思います。1月20日(土)午前10時から午後2時ぐらいまで、文化財課で行います!



裏側はこうなっています!

文化財課の連絡先

稲坂・荒川・田原 まで

〒732-0052 広島市東区光町二丁目15-36

TEL 082-568-6511 FAX 082-568-6513

稲坂 ina@mogurin.or.jp 荒川 ara@mogurin.or.jp 田原 tahara@mogurin.or.jp

文化財課ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>